

## 継続審査 プレゼンの見直し について

### プレゼン審査の特徴

- ・提案者と対面し話を聴くことで、書類からは読み取れない人柄や、課題の重要性、事業のコンセプトなどを知ることができる。
- ・公開プレゼンテーションとすることで、審査の透明性が増す。
- ・事業の概要や、団体の概要など、大局的な内容について理解しやすい。
- ・応募書類を読んでいて生じた疑問など細かい事項は、後で質問しなければならない場合が多い。
- ・提案者と審査委員との距離（心理的・物理的）が遠く、問答が表面的になりがち（質問されたら、即答しなければならない雰囲気）。
- ・プレゼンと質疑応答の時間をそれぞれ確保する必要がある。

### 新規事業におけるプレゼン

- ・審査委員は、団体の人と初めて顔を合わせ、初めて話を聴く。
- ・審査委員による質問ポイントも、大雑把な大きな事項であることが多い。  
**事業採択の判断において、プレゼンの果たす役割が大きい。**

### 継続審査

- ・審査委員は、団体の人とは既に対面しており、事業内容・実績も概要は解っている。
- ・審査委員による質問ポイントも、事業実施に関する細かい点が多い。  
**事業採択の判断において、プレゼンよりも質疑応答の果たす役割が大きい。**

見直し案は、裏面を御覧ください。

## 見直し案

継続事業においては、プレゼンテーションをやらず、公開された面談による質疑応答により審査をする。  
 プレゼンテーション審査と面談審査の比較は、別表参照。

### 【別表】

	プレゼン（現状維持）	面談形式	プレゼン時間短縮
内容	プレゼン7分 + 質疑応答12分	プレゼン 0分 + 質疑応答15分	プレゼン3分 + 質疑応答12分
長所	<p>これまでどおりにやればよいので</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不測のリスクがない</li> <li>・新たな手順を構築する必要がない</li> </ul> <p>図や写真（パワーポイント）で事業実績等を示せる。</p>	<p>質問者と回答者の距離を近づけることで、問答がかみあいやすくなる。（回答者も答えやすい）</p> <p>委員が確認したいことを質問しやすくなる。</p> <p>時間が短縮される</p> <p>電子機器不調のリスク無くなる。</p>	<p>現行のプレゼン形式のまま、プレゼンの時間を2～3分程度とする。</p> <p>長所は、 と の中間</p>
短所	<p>質問者と回答者の距離が遠く、問答がかみあわないこともある。（回答者は身構えてしまう）</p> <p>委員が確認したいことの質問がしにくい。</p> <p>時間がかかる。</p> <p>電子機器不調のリスク</p>	<p>新しいことをやるので</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不測のリスクがある</li> <li>・新たな手順を構築する必要がある</li> </ul> <p>図や写真（パワーポイント）で事業実績等を示せない。                      （紙による資料を別途出させるか??）</p>	同上
所要時間	20分 × 7団体 = 140分 （2時間20分） + 休憩10分	15分 × 7団体 = 105分 （1時間45分） + 休憩10分	15分 × 7団体 = 105分 （1時間45分） + 休憩10分